

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4073300313
法人名	株式会社 太平洋
事業所名	グループホーム ファミリー
所在地 (電話番号)	福岡県宗像市平井1丁目19-1 (電話) 0940-37-0004

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 10月 21日	評価確定日	平成 21年 1月 30日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	2階建ての, 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	食費に含む 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成 20年 6月 15日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	摩利支病院 蜂須賀病院 大林歯科 宗像病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然が多く残る環境にホームはあり、地域密着型サービスの導入を機会にホーム名を“ファミリー”と改めた。平成20年春、経験豊富な新施設長が就任した事と、引き続き母体本部の統括・サブマネージャーがサポートする事で、ご利用者本位の“できるところを活かした介護”に取り組むという職員の意識改革に力を入れてきた。職員も一丸となって新たなホーム作りに取り組んできた。職員のアイデアを大切に、そのアイデアをケアに活かすことで、ご利用者の表情に良い変化が見られたり、職員のやりがいにもつながってきている。隣接する2地区の区割りが決まらず地域交流が困難な状況が続いていたが、根気強く運営推進会議等で働きかけを続けてきたことで解決の糸口が見え始めており、少しずつ地域との交流も増えてきている。また、今までは委託業者が食事を作っていたが、職員がクックチルド等を利用しての調理へと切り替えた事で、調理面でのご利用者の活躍の場面も増えてきている。新施設長を中心に職員の育成計画も始められており、ホームとしての新たな組織作り、ご利用者の生きがい作り、地域との連携を含めて、今後の取り組みに更なる期待が持てるホームとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の交代が続いた事で理念が実践に結びつきにくかった。新施設長の就任により、サブマネージャーとともに常にケアの中で指導したり、ミーティングで話をした結果、スタッフ同士、意識しあうようになってきた。ご家族への報告も、新施設長のシフトを日動中心にした事で、ご家族と会う機会も増え、来訪時ごとに話したり電話で報告を行っている。ファミリー通信も再発行され、ご利用者の笑顔が多く掲載されている。食事も委託業者より、クックチルドへと変更した事で、ご利用者に少しずつ協力して頂く場面も増えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サブマネージャーが統括と相談しながら自己評価票の原案を作成した。施設長が職員に項目の説明を行いながら、現状行っている事をミーティングで話し合いを行い、評価内容を膨らませていった。職員の新たな気づきにもつながっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご家族・歯科協力医療機関の医師・地域住民代表として民生児童委員・市の職員等の参加で、2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。前回の外部評価の結果や、運営内容、ホームでの取り組み等について報告を行い、出席者の意見を踏まえてケアの改善も行われている。事業所の隣接する2地区の区割りが決まらなかったが、運営推進会議で「ホームが地域密着型である事」の説明を続け、理解して頂くよう取り組みを行ってきた。少しずつ地域の方がホームを気にかけてくださるようになった。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>ご利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等は、ご家族に電話や来訪時・運営推進会議出席時等に口頭でお伝えしたり、再発行されたファミリー通信でも報告を行っている。金銭管理については、毎月、明細書と領収書のコピーをご家族などに郵送している。ご家族が来訪された際に、施設長が、ご本人のご様子をジェスチャーを交え報告したり、笑顔の写真をお見せしたりと、報告を行っている。なかなか来訪できないご家族には、電話やファミリー通信にてこまめに報告が行われており、個別に応じた報告がなされている。経験豊かな施設長が、7月よりシフト変更で日動帯に出勤し、ご家族とゆっくり話をしたり、電話もまめに言うようになり、ご家族にとってもよき相談相手となってきている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の隣接する2地区の区割りが決まらなかったが、運営推進会議で「ホームが地域密着型である事」の説明をしており、理解して頂くよう取り組みを行ってきた。幼稚園との交流を持つ事を意見として頂き、昨年より年に2~3回、お遊戯をして下さる等の交流が始まっている。“しぶ柿に毛虫がいる”事を地域の方より教えて頂く等、少しずつ地域の方がホームを気にかけてくださるようになった。6月にはボランティアの方がハーモニカ演奏をしてくださり、ご利用者が活き活きされるようになってきた。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設時、法人代表者の思いを基本にしながらも、地域に開かれたホームとなるよう、統括・サブマネージャーと共に独自の理念を作成した。理念・『①「ファミリー」はご入居者・ご家族の皆様と私達スタッフが心のふれあいを大切にする“家族”でありたいと考えています。②私たちは、ご入居者にとって『安心、安全である事が当たり前の事と捉えられる生活環境』作りを目指します。③私たちは、心からのケアを提供する為に知識の習得と技術の研鑽に努めます』という理念を掲げどこにしている。	○	地域密着型サービスになってから、あらためて理念を見つめ直すことはまだ行っていない。「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていきたい」との思いがあり、今後は、職員全員で、新たな理念の作成を予定しており話し合いを続けている。地域密着型サービスとしての意識付けも含め、グループホームの役割を考えながら、さらに事業所独自の理念が作られていられることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関とスタッフルームに理念を掲示し、職員がいつでも理念を見ることができるようにしている。ミーティングの時に「家族として安心して寄り添えるように、否定するような言葉かけをしないこと、人生経験豊かな利用者者に尊厳を持って接する」等、統括マネージャーとサブマネージャー、更に施設長が職員に話しをしている。ケアの現場でもスタッフは常に理念が頭にある為、人の行動を見ながら自分で反省を行ったり、スタッフ同士で意識しながらモチベーションを上げる等行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外部評価の時期には、事業所の隣接する2地区の区割りが決まっていなかった。運営推進会議でホームが地域密着型である事を説明し、理解して頂くよう取り組みを行ってきたが、幼稚園との交流を持つ事を意見として頂き、昨年より年に2～3回、お遊戯をして下さる等の交流が始まっている。また、「しず柿に毛虫がいる」事を地域の方より教えて頂く等、少しずつ地域の方がホームを気にかけてくださるようになった。6月にはボランティアの方のハーモニカ演奏も行われた。	○	地域交流が活発になる事で、ご利用者が活き活きされるようになった。また職員も、新体制になった事で、まずは地域の方と顔馴染みになることに力を入れ、外出時には挨拶したり、自治会長から地域の活動を聞き参加できるよう働きかけを行っていく予定である。また、地域行事の把握のための情報収集を行い、ご利用者が参加できるような行事があれば参加していくとともに、子供110番等できれば引き受けたいと思っており、今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サブマネージャーが統括と相談しながら自己評価票の原案を作成し、施設長が職員に項目の説明を行なった。現状行っている事をミーティングで話し合いを行い内容を付け加えていき、職員の新たな気付きにもつながっている。前回の外部評価直後に改善に向けた取り組みを開始し、運営推進会議でも自己評価、外部評価結果の報告を行った。具体的な改善計画も作成し、運営者、新施設長、職員一丸となって改善に向けた取り組みを積極的に行ってきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・歯科協力医療機関の医師・地域住民代表として民生児童委員・市の職員等の参加で、2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。前回の外部評価の結果や、運営内容、ホームでの取り組み等について報告を行い、出席者の意見を踏まえてケアの改善も行われている。メンバーが固定され、状況を理解していただけており、有意義な意見交換が行われてきている。	○	会議へのご利用者の参加は促してしていなかった。今後、ご利用者の意見も反映できるよう、会議の場をホームに移す予定にしている。会議を二部構成等にして、始めにお茶会やレクリエーション等を行い、会議にさりげなく移行する等、無理なくご利用者へも参加して頂きたいと施設長は考えており、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サブマネージャーは市の担当者に運営推進会議のあり方を相談している。認知症ケアのことについてアドバイスを頂いたり、ホームの現状を報告するなど、日頃から市の窓口を訪れたり、民協役員会や地域活動を通じて、密に連絡を取り合っている。市の担当者も変わり、以前より相談していた隣接している2地区割りと地域密着型サービスの理解についての協力のお願いについて、課長が自らから運営推進会議に来てくださり説明をしてくださっている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご利用者のお一人に成年後見制度を活用されている方がおられる。施設長が研修に参加し勉強しており、ホーム内に資料も常設している。職員には、勉強会を通じて理解を深める取り組みを行なうとともに、運営推進会議でも議題に取り上げ、会議に欠席されたご家族へは、文章で伝えるなどしている。	○	今後は、実際の後見人の方に話をして頂く機会を設け、ご家族や職員への勉強会を行っていきたくとホーム側は考えている。更なる制度の理解が深まっていくことにつながるため、今後の取り組みに期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動や退職等は、ご家族に電話や来訪時・運営推進会議出席時等に口頭でお伝えしたり、再発行されたファミリー通信でも報告を行っている。ご家族が来訪時、施設長がご本人の様子をジェスチャーを交え報告したり、笑顔の写真をお見せするなどの工夫もしている。金銭管理については、毎月、明細書と領収書のコピーをご家族などに郵送している。来訪できないご家族には、電話やファミリー通信にて細めに報告をする等、個別に報告がされている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム行事の時にご利用者とご家族に集まって頂き、サブマネージャー、職員も一緒に食事をしながら話し合える時間を作っている。職員の入れ替わりにもない、ご家族が不安に思われないよう、相談窓口が施設長に変わった事もお伝えしている。意見・苦情は運営推進会議の議題に取り上げ、助言をいただき、改善する努力も行われている。経験豊かな施設長が、7月より日勤中心の勤務となり、ご家族とゆっくり話をしたり、電話もまめに行うようになり、ご家族にとっても良き相談相手となっている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期、職員の入れ替わりが多かったことで、ご利用者やご家族に不安を与える事もあった。離職を防ぐ対策として、サブマネージャーが、状況に応じて不定期に職員の個人面接を行いストレスの原因を把握するとともに、励ましの言葉なども職員に伝え、精神的フォローを続けてきた。4月より新施設長が来られ、職員も落ち着き人間的にも充足してきている。施設長の言動がポジティブな事と合わせて、施設長自らが楽しそうに生き生きと仕事をし、職員の相談にもものっている為、職員の離職が激減し、逆に「ここで働きたい」という人が増えてきている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象から外すということはない。個人の能力を見極め仕事量の配慮をしたりしている。パソコンが得意な方にはファミリー通信を作っていたり、裁縫の得意な方、ダンボールを使って小物を作るのが得意な方、料理やおやつ作り、ギターが弾ける等一人一人の得意分野を把握し、力を発揮していただいている。職員が生き生きと働けるよう、資格取得の資料等も準備し指導を行う等職員のキャリアアップにも支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サブマネージャー、施設長が人権尊重の大切さを職員に伝えている。内部研修への参加も検討しており、ミーティングの時間に個別の具体例を挙げて、人権を尊重することを職員全員で話し合っている。倫理についての研修も行った。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4月の新体制になりサブマネージャー・新施設長が、職員の育成を行っている段階で、職種別の研修計画は立てている。人員が安定してきた事で、法人外の研修を受講する機会も増えてきた。母体の法人との合同研修も行っており、伝達研修も行っているが、まだ、すべての職員が外部の講習に参加するまでには至っていない。	○	一人一人の職員の能力を見極めて、職種別の育成計画が作成されている。今後は外部研修に多くの職員を参加させ、伝達講習も行っていきたいとの事で、職員の質の確保・向上に向けた取り組みに結びついていくことに期待していきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	統括・サブマネージャーは認知症ケアネットワーク事業の運営スタッフの一員であり、連絡協議会の運営協力委員でもあり、地域の同業者との交流も盛んに行っている。各研修会の運営や参加も行っており、他のグループホームとの相互訪問も始まり、サービスの質の向上に向けて、積極的に取り組んでいる。新施設長や職員も少しずつ集まり等に参加を行っている。	○	以前、認知症ケアネットワークのための交流会等に参加していた職員が移動になってしまった。今後は、勤務の状況も見ながら、他の職員も交流会等に参加させていきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを訪問していただき、個別に説明等を行っている。“箱の中に入ってしまう”というような不安を持たれているご利用者に対して、週末はご自宅で過ごす事を提案したり、居室番号を表札に変えて、安心できるような対応を行っている。ご利用者の気持ちを大切に、不安な気持ちの背景を少しでも理解するために、入居後も、ご本人が環境に慣れられるまで、ご家族とも相談しながら面会に来ていただいたり、職員が寄り添って支援しながら“入れられた”という思いにならないように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おしゃべることが大好きなご利用者から、「今日の服は素敵ね」と職員が褒めていただいたり、オムツ交換後に「ありがとう、お世話になりました」と感謝の言葉をいただく事が多くなっている。職員が、ご利用者からねぎらいの言葉をかけていただくこともあり、職員も感謝の気持ちをご利用者に伝えている。介護度の重度の方が多く、ご本人にできることはしていただいているが、喜怒哀楽を共にして一緒に生活しているという関係作りまでには、まだ達していない状況があると職員は感じている。	○	今後、ご本人の出来る事、昔より培ってきたもの(髪結い、朗読等)を会話の中より引き出ししていけるように、更に会話の場を増やしていきたいと施設長は考えている。今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基づくアセスメント用紙を活用し、ご本人の思いや意向の把握に努めている。特に、意思疎通の困難な方の思いの把握が難しく、職員同士で把握できている内容や量にも差が見られるため、ミーティングの場を活用し、職員全員で共有できるようにしている。また、これまでの生活歴などをご家族にも確認している。ご本人の望む暮らしは何か、さらに今後も意向の把握に努めていきたいと考えているが、全利用者については、まだ十分には把握できていない状況である。	○	現在も、ご利用者に向き合うことを続けており、以前よりも単語が増えてきているご利用者もおられる。今後も、入浴、食事、ドライブなど、さまざまな生活場面において、ご利用者の微妙な表情の変化、仕草、気持ちをキャッチし、記録に残すとともに、もっとゆとり会話する機会を増やして思いを引き出していきたいと施設長は考えている。少しでもご利用者の真実の気持ちに近づくことができ、それが、結果的に、職員の方々の更なるやりがいにつながっていくことも期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用して、施設長が中心になり、ご本人・ご家族の意向を確認し、ケアマネジャーがプランの原案を作成している。なるべく、ご本人ができる事を主体にするよう努めているが、一部、課題・目標がスタッフの視点で作成されているものもある。職員の努力もあり、ご本人の生活への意向は把握され始めているが、残念なことに、その文言を文章に表現されていないものがある。ようやく人員も安定してきたため、今後は、スタッフ全員での話し合いを行なっていきたいと考えている。	○	今後、ご利用者、ご家族や職員、関係者と話し合う場を大切にし、多くの方の気づきや意見が、計画に反映していかれることを期待していきたい。ご利用者1人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえ、できる力を把握してさしあげながら、『その人らしく地域の中で暮らし続ける』ための個別・具体的な課題・目標が記載されていくこととともに、実際に行われている事を少しずつプランに表現していかれてはいかかがであろうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しは3ヶ月ごとに行うとともに、毎朝の申し送りの際には確認も行っている。変化が生じた場合には、状況に応じて随時見直すこともされている。全利用者について月1回程度ケアの変更の必要性はないか等、職員ミーティングのときに確認を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新施設長(看護師)となり医師との信頼関係も深まり、病状の早期発見・早期治療や医師との連携で早期退院にもつながり、病院では寝たきりだったご利用者が、ホームに戻ってきて動けるようになり、笑顔が増えた方もおられる。ご要望に応じて入院時の付き添い、入院中の洗濯も支援している。またホームに入居した事が理解できないご利用者に対し、居室に表札をつけて安心して頂いたり、以前住んでいたアパートやタバコを買いに行く等の外出支援も行っている。地域の方からの相談にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の意向を伺い、協力医療機関以外でもかかりつけ医を希望される場合は、受療していただき、通院介助も行われている。施設長(看護師)が受診に同行し、担当医と話しをするなど十分な信頼関係も築けている。施設長が、日勤帯にシフトを変えた事で医師との連携が取りやすい状況にあり、医師からの信頼もあり、状態変化時でもすぐに入院という形ではなく、ホームで点滴をしながら対応できる環境も築けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状態が変わった場合、重度化したときにどう対応するか、施設長(看護師)がご利用者・ご家族と話し合いをし、状況に応じては医師へも相談している。施設長が、その日のご利用者の体調によって夜中まで付き添うこともある。入居時にホームで終末期を迎えたいと希望されていても、その後、状態が悪化した場合、入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをし意思の確認をするようにしている。今までに看取りを2名程行ってきたが、夜間でも駆けつけてくれる施設長の存在が、ご本人・ご家族や職員にも安心感を与えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	倫理規定に基づき研修も行って、「こころの抑制」をしないようにミーティングを通し、話し合いも行っている。ご利用者のプライバシーを損ねるような声かけにも注意し、羞恥心にも配慮した対応を行うように心がけている。個人情報についても、記録物の置き場所や申し送り等にも配慮し、個人情報漏洩防止にも努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、ご本人のペース・暮らしぶりを把握している。入浴等何かを拒まれる時は、何故拒むのかを聞き取りを行っている。無理強いはせず希望に沿って横になっていただいたり、洗濯物たたみをしたり、テレビを見るなどそれぞれ自由に過ごしていただいている。体調や表情などにも配慮し、食事の時間をずらすなどの対応も行っている。2階の居室に寝たきりだった方をご利用者が集う1階へ居室を移動し、馴染みのご利用者との交流がもてるようにした結果、生活意欲を引き出す事が出来た方もおられた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2年前から委託業者に調理を依頼していた。今年の9月頃より職員が週5日はクックチルドを利用し、週2日は手作りで調理をしている。ご利用者にも能力に合わせて食卓の準備や片付け、テーブル拭き等していただいている。看護師であるサブマネージャーが加齢等を考えながら献立を作成している。生活歴や残食の状況から好みのものを把握し、月1回給食会議も開かれ検討されている。お弁当箱に食事を盛りつけ雰囲気を変える等、楽しい食事になる工夫も行っている。	○	委託業者への調理依頼から職員がクックチルド等を利用しての調理へと移行して、少しずつご利用者への協力もお願いできているが、調理全般を行うまでには至っていない。まずは、職員が今のシステムに慣れる事を優先し、その後ご利用者にも下ごしらえ等から関わっていただけるようにしていきたいと施設長等は考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日お風呂を沸かしており、その内2回を入浴日と概ね決めている。希望や必要に応じて入浴日以外の時にも1階で入浴していただく等の対応は行っている。基本的にはお一人ずつスタッフと1対1での対応を行い羞恥心への配慮のため、同姓介助を行っている。週2回の入浴のため、それ以外の日は、下用のタオルを準備して、陰部清拭などを行っている。「夜間の入浴をしたい」との職員からの希望はあるが、現在まだ実施には至っていない。	○	ご利用者1人ひとりの入浴への希望や意向の把握が不十分で、職員の人員の関係で入浴回数が限られている状況ではある。「ご希望を確認しながら夜の入浴も検討していきたい」と職員より声があがってきている。入浴回数の増加やシャワーでの対応が出来ないかなども含め、今後の検討の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物やおしぼりたみ、花の水替え、洗面所の掃除などの役割をもってされている方の支援をしたり、楽しみごととして歌や歩行訓練を兼ねご利用者に車椅子を押して頂いての散歩や外にある椅子にお連れするなど外気にあたる機会を増やすような取り組みを行っている。“父の日”と“母の日”を合同で行ったり、外食でラーメンを食べに行ったこともある。	○	今後も、一人一人の生活歴、持っている力を引き出しながら、新たな取り組みが予定されている。1人ひとりがその人らしく暮らし続けられるように、男性にも個別の役割を持っていただいたり、気晴らしの支援を行っていく予定である。また、以前作っていた畑を復活させていきたいとの事で、今後の取り組みに期待していきたい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出することに意欲を示さないご利用者に、まずは1階のフロアに降りることから進め、次に庭の椅子へお連れし、徐々に慣れていただいております。地域の花見や宗像大社の菊花展等に出かけてたり、周辺の散歩にでる機会が昨年より増えてきている。	○	職員が安定してきたこともあり、今後は、ご利用者が入居する以前に行かれていた外出先の把握や、地域でどのような暮らしをしておられたかの把握をしていくとともに、徐々に散歩の回数を増やし、入居前の暮らしが継続されていくような取り組みが行われていくことを期待したい。更に食事や地域の花を見に行く機会を増やしていきたいと考えており、今後に期待していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ前が道路という事もあり、玄関の自動ドアがテンキー式になっている。日中もご利用者が自由に入出することはできないが、“開けたい”という気持ちを職員は持っており、月3回程度は職員の配置等を考慮し、ご利用者の行動を見ながら、短時間ずつ開錠している。	○	職員が鍵をかけない暮らしの大切さを理解して、安全確保に留意しながらも、玄関を自由に入出りできるようなケアの実践が行われていくことを期待したい。今後は、ミーティングで少しずつ話し合っていくことから始め、お一人おひとりの行動心理を把握しながら、見守り体制を整えていきたいとの事で、今後の取り組みに期待していきたい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災マニュアルがあり、年2回は防火管理者を中心に避難訓練とあわせて数回通報訓練も行われている。消防署の方から「地域の方へも呼びかけ、協力依頼をしてはどうか」と言われているが、現在はまだ特に行っていない。災害発生時に備えて、数日分の食糧(米・冷凍食品・缶詰)の準備は行っているが、飲料水についてはまだ準備されていない。	○	災害時における地域の避難場所の確認を行うと共に、地域の方からの協力が得られるように、一緒に避難訓練を受けられるような取り組みを検討されてはいいかかと思われる。災害に備えての飲料水の準備も、今後行っていくとの事で、今後の取り組みに期待していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師のサブマネージャーが、食べれない物等の報告を受けながら、バランス・カロリーを考え献立作成を行っている。摂取量の制限がある方は、大きな容器に盛ることで量を多く見せるような工夫を行ったり、嚥下・咀嚼力に合わせぎみや、とろみにしたり、男性にはご飯を少し多めに盛る等の対応もされている。肉や魚が苦手な方には代替で豆腐を使用したり、小さく切って形を変えるなどの工夫もされている。毎食後、食事量のチェックや、水分はマグカップ(200cc)に入れて量のチェックも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には家族が持ってこられたお花が飾られたり、季節に合わせた手作りの貼り絵が壁に飾られている。職員が安定し、新施設長が率先して掃除を行っており、職員、ご利用者と共に環境整備を徹底している為、嫌な匂いもなく、シーツもピンと張られ、清潔感が感じられる。職員が足音を響かせないように履物の工夫もされている。西日が強い場所には、青色のプラスチック板を窓に張り、まぶしくないよう配慮されている。玄関に入ってすぐにソファを置いた事で、ご利用者同士やご家族との団欒の空間となっており、玄関の出入りの度に挨拶が飛び交っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるよう、事前に訪問した際にご家族とも話し合いをしている。新しいものではなく使い慣れた椅子やリクライニングチェア、テーブル、加湿器、髪結いセット、湯飲みセット、自画像など持ち込んでいただき、レイアウトもご家族・ご利用者と一緒に行っている。		